第1章

『中東のなかの「障害と開発」』に向けて

森 壮也

はじめに

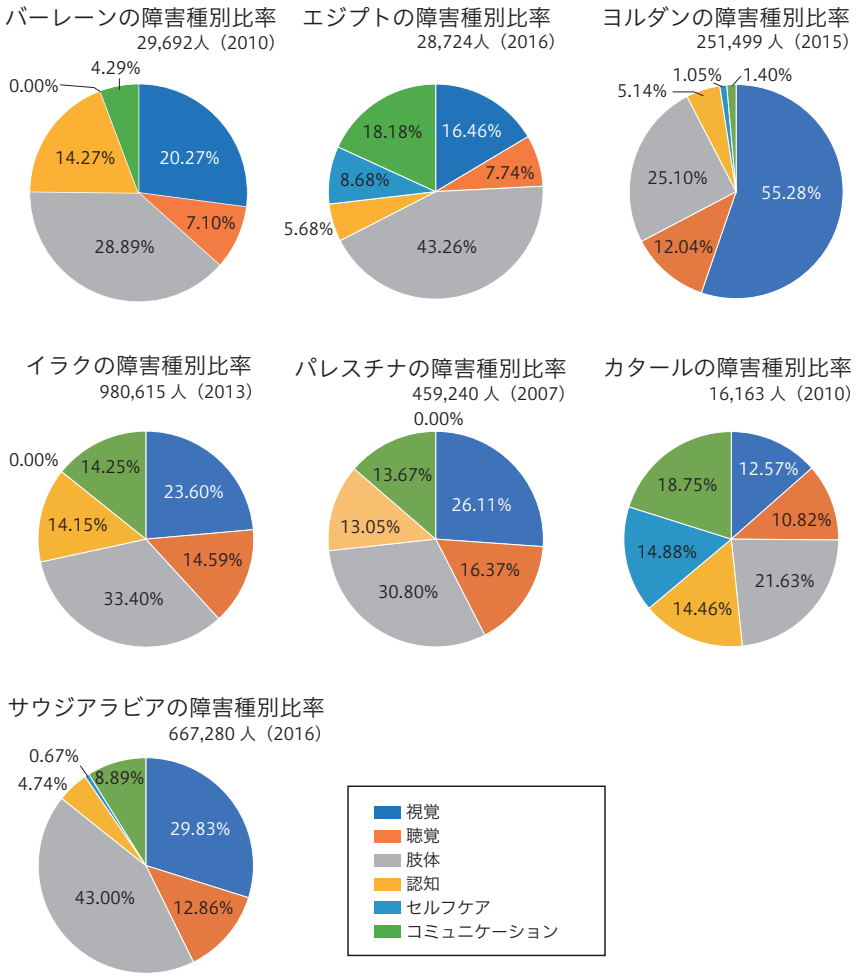
アジア経済研究所では，森（2008），森編（2008）で開発学における新しい分野である「障害と開発」の概要を示し，森編（2010），森・山形（2013），森編（2018）で主として開発経済学の立場から，小林編（2010，2012，2015，2017）で法学の立場から，それぞれ，途上国における障害者の現状，課題，当事者団体の状況などについて分析を進めてきた。地域別では，上記のものは特に東南アジア・東アジアを対象としていたが，このほか南アジアについて森編（2011），アフリカについて森編（2016）が実態を明らかにしてきた。本書でも依拠しているこの「障害と開発」について，森編（2016）では，次のように説明している。「各国の地域研究の蓄積をベースに，障害学の枠組みで統一的に把握することをめざした。（中略）改めて障害を障害者個人や医療の対象に還元してしまう「障害の医療・個人モデル」ではなく，「障害の社会モデル」の観点からまとめた。つまり，社会の問題として，機能的障害がある時に障害者が直面する障壁をDisabilityと呼んで，社会のあり方を考えるという「障害の社会モデル」を念頭においた形にし，障害当事者に見えている社会とは何か，国家や地域社会などの社会と障害当事者はどのような関係を築いてきているのか，といったことを明らかにすることを試みた。言い換えれば，障害を医学の問題やリハビリテーションの問題にしてしまうのではなく，社会の発展のなかで障害の意味も変わることを重視した見方を取ろうとしている。このため，障害当事者たちの活動が実際にどのように各国で異

なっているのか，また各国の政策における障害観の違いについても，これを統一性がとれていない問題とするのではなく，（中略）多様性と各国の発展段階を示すものとして受容しようとしている。」(同書, 4-5）本書でも同様の立場を「障害と開発」ということばで表現し，こうした立場にたった論考をそれぞれの地域について展開している。

一方，世界の途上国では，いくつかの地域がこの「障害と開発」研究でも，未だにカバーされずに残っている。そのひとつが中東地域である。本稿では，中東を歴史教育者協議会編（2006, iv）にならって「歴史的にイスラム（ママ）教徒が社会を動かしていく主役となってきた，西はモロッコから東はアフガニスタンに至る北アフリカと西アジア」を指すこととする。また長場（2001, 7）の「アラブ，ペルシャ（イラン），トルコという主要な3つの文化圏，言語圏および文化から成るイスラームが支配的な世界」という定義も念頭においておくこととする。これらの定義の背景となった日本の中東地域研究の歴史は長く，政治，経済，社会と研究も多方面にわたっている。一方，そうした研究のなかで障害を取り上げたものは，次節で述べるようにまだ数少ない。そこで本稿では，これまでどういった研究があり，どういった内容の研究があるのか，この地域の障害者について今後改めて考えられるべき課題があるのか，その序章となるべき考察をすることとした。

この中東地域についての定義が諸機関でさまざまであるため，この地域の障害データを国際比較可能な形で示している報告は数少ない。国連西アジア経済社会委員会（ESCWA）が域内の数カ国について，障害データを明らかにしているが，図1-1はこれを示したものである。国際比較が行えるような形での数少ないデータを示した同図では，各国の障害者の比率にかなりバラエティがある形となっている。しかし，これは実際に各国でこうした比率になっているというよりもそれぞれの国での障害者の捕捉状況が違うためである可能性が極めて高い。内戦や地雷等で肢体不自由者の比率が特に高いというような理由があるのでなければ，こうした差は通常は説明がつかないためである。このように比較が可能になっているデータであってもこれらが障害者の実態を表しているのかどうかには依然として疑問があるのが実情であるが，本書が対象とする国々のデータについては，障害の定義や基準等もばらばらで比較可能な形ではないが各国の章で引用されるも

図1-1　アラブ諸国の障害者数統計



（出所）Economic and Social Commission for Western Asia (ESCWA), Arab Disability Statistics in Numbers 2017.

のをご覧いただきたい。

一方，中東地域内においても，国連の障害者権利条約の成立に見られるように，これまで周縁化されていた障害についての関心の高まりという国際的な潮流を受けての変化が見られる。1981年には，クウェート地域障害者に関する会議「アラブ障害者と共にする仕事の宣言（Arab Declaration on Work with Disabled)」が開催され，1997年になると今度は，第10回イスラーム法学を含むさまざまな法における心理学上の保健の法律に関する地域会議（'Al-Mushāwara al-buldāniyya hawl tashrī'āt al-sihha a-nafsiyya bimā fī dhālik al-sharī'āa al-islāmiyya'）がクウェートにおいて，イスラーム医科学諸団体の主催，世界保健機関東地中海地域事務所（WHO EMRO）の共催で開催された。さらに2000年に上記のイスラーム法の会議の並行会議で，サウジアラビアのリヤドで開催されている。この会議の主催は，障害児協会と障害研究のためのサルマン王子センターである。翌2001年には前年の会議を受けて，「イスラーム世界の障害者リハビリテーションと高齢者のためのケア：21世紀に向けた諸戦略」という会議がスーダンのハルツームで開催され，障害者の医学的治療，リハビリテーション，労働，訓練，税や関税の免除，平等，参加，社会的統合，平等な機会についてイスラームのシャリーアの観点から議論がなされた。

こうした域内での動きも国際的な「障害と開発」の新しい動きが中東地域で起こっていることの証左である。これらの国際的な動き，また同地域における障害者の状況を改めて整理していくことを本書では行う。

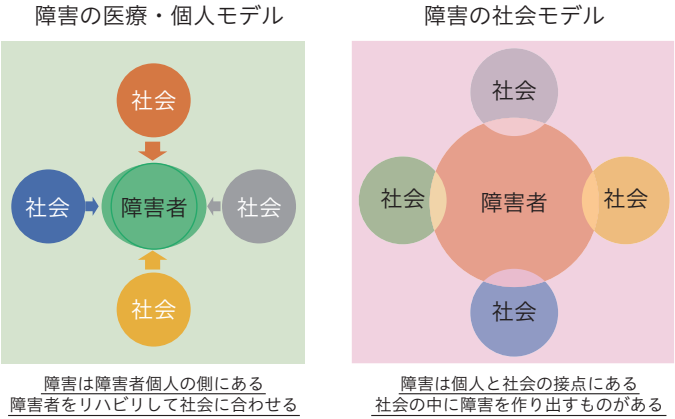
このため，本稿では，まず我が国における中東研究における障害に関連した諸研究，次に国際的な観点から海外の英語文献における中東研究のなかの障害研究をサーベイする。最後に，本稿での議論を通じて，浮かび上がった「中東のなかの『障害と開発』」で取り組むべき課題について提言を行う。

1　国内外における『中東のなかの「障害と開発」』研究

我が国における中東研究では，社会開発や公衆衛生の研究者を中心に，現地の障害女性の置かれている問題についてのリポートが，いくつか出てきている。そのひとつが国連で長らく「障害と開発」分野の担当官として活躍した長田によるヨルダンとレバノンの分析と政策提言である（長田 2008）である。これは，「障害の権利モデル」に基づく支援の必要性をこれらの地域を特に対象にして論じたものである。長田による「障害の権利モデル」とは，「障害者の身体には違いがあり，多様な障害者には異なったニーズがあるが，人間としての権利は同じである」というものであり，国連における子どもや女性などに対する人権アプローチの考え方と基本的に同じものである。ただ，長田もそうした考え方を基盤に置きつつも，「さまざまな差異を，地域生活や開発の視点から包括的に捉えることを可能にする視点」が大事だとしており，地域的な差異を把握することの重要性を認めている。長田はシリア，レバノンでのアンケート調査で，特に非障害者の障害者に対するネガティブな態度に注目しており，「社会の態度向上のための公的教育プログラムやソーシャルコミュニケーションに携わる教師やソーシャルワーカー，開発ワーカーなどは，このことを認識すべき」だとしている。障害に対するアプローチは，チャリティや医療をベースにした障害を個人に帰する「障害の医療モデル」から，より社会的なものへと変化してきており，それが「障害の社会モデル」として知られるアプローチにつながってきた（森 2008, 図1-2）。長田の「人権アプローチ」は，その次に位置づけられるものだとしているのが長田（2008）の研究の骨子であるが，人権をベースとすることに異論はないものの，「障害と開発」における研究としては，そこに至る前にまず，この地域における「社会モデルとしての障害」がどのようなものか，他地域と同じなのか，違うのかということを今，改めて確認しないとならないはずである。この作業は，未だ不十分であり，今後，他の中東の国々も含めて，この地域における障害が社会的にどのような状況にあるのか見ていく必要がある。

また看護師としてイランの障害者に触れてきた細谷（2008; 2011; 2016; 2018）は，丁寧な障害当事者訪問調査により，脊髄損傷者を中心としたイランの障害者

図1-2　障害の医療・個人モデルと障害の社会モデル



(出所)筆者作成。

が利用している医療・福祉系サービスの実態に触れているほか，家族を中心とした彼らの社会的関係にも触れた研究をしている。医療に関連した研究であるが，障害当事者の立場からのものという意味で長田の研究同様，「障害と開発」の研究と言える。長田の調査がいわばマクロの調査だとすると，細谷の調査はミクロの調査と言え，加えてNGOの位置づけなどにも触れている興味深い一連の研究である。

このほか，直接的には「障害と開発」の研究ではないものの，イスラーム哲学を専門とする小村による小村（2008; 2016）など哲学や思想におけるこの地域の障害についての研究がある。そこに見られるように，この地域の障害者についての新たな研究が少しずつ積み重ねられつつあるとはいえ，まだ数はまだ非常に少ない。

一方，中東地域の障害者については海外でも多くの研究が出てきている。特別支援教育分野に焦点を当て，個々の国を取り上げたものとして，オマーンにおける障害児インクルーシブ教育についての実態について述べたEmam(2016)，同じくオマーンで学習障害児が利用できる諸サービスについて述べているAl-Hilawani(2016）がある。クウェートについては，Al-Kandari et at.(2017）が，同国の学習障害児についての社会支援リソース等について調べている。Al-

Hilawani, et al.(2008）は，クウェート大学において2006年に行われた障害児への評価・早期介入についての報告である。またKhoury et al.(2015）は，パレスチナ占領地域において2011年に0-17歳の障害児42,176人を対象に障害種別や程度等について調べた報告である。ヨルダンについて，Dababnah and Bulson(2015）が，ヨルダン川西岸における自閉症児のためのサービスについて報告している。このほか，国をまたぐものとしては，Koch, et al.(2014）の，トルコで開催された中東の障害児への早期介入の拡大についてという会議についての報告があるほか，Alkhateeb, et al.(2016）が，アラブ諸国の特別支援教育の歴史と現状の紹介をしている。Hadidi and Al Khateeb(2015）は，アラブ諸国の特別支援教育について2015年までの30年の歴史を振り返った論文である。このように特別支援教育については，実践報告を中心とした論文が多数さまざまな地域で出ている。Iqbal and Kiendrebeogo（2014）は，中東と北アフリカ地域について，1970-2010年の40年間の教育の成果を分析しているが，その対象のなかに公教育における障害児教育も含まれている。こうした長期にわたる成果の分析と評価もこの地域では出てきている。障害児についての研究は，中東に限らず，他の地域でも比較的報告は多いが，教育にあたってどのような工夫をしたかについてやどういった支援があるのかという立場からのものが多い。しかし，教育分野については，障害当事者の実情や視点という「障害と開発」が重視しているものは，中東でもほとんどない。障害当事者の教員がどれほどいるのかについての報告もない。未だ当事者視点という「障害と開発」の観点の導入が遅れている分野である。

障害当事者の実態や当事者運動については，Karimkhani et al.(2017）が，イランとその近隣諸国における皮膚病に焦点を当てて研究している。Burton, et al.（2013）は，パレスチナ占領地におけるプロジェクトの実践から，同地の障害当事者たちが障害者運動の当事者となり得るのかどうかを探った興味深い論文である。ILO(1974）は，1974年にポーランドで開催された，ILOとUNDPによる障害コーポラティブの活動や開発に関する中東地域セミナーでの報告と結論，勧告をまとめている。中東地域でのこうした当事者運動や彼らの生活実態についての研究は，この2点があるがまだ少ない。

中東地域の障害者の状況の把握としては，障害生存年数（Years Lived with

Disability: YLD）を計算した研究がある。Djalalinia et al.(2017）は，イランと周辺諸国16カ国について1990-2015年の疾病・負傷データからこれを明らかにしている。Sepanlou et al.(2017）は，イランとその周辺15カ国について，SDGsを念頭にThe Global Burden of Diseases, Injuries, and Risk Factors Study 2015（GBD 2015）のデータを用いて障害調整生存年数（Disability-Adjusted Life-Years: DALY）の推計を行ったものである。「障害と開発」の研究で重視される障害当事者たちの生活実態とDALYとは異なるが，障害当事者たちが中東地域でどれだけ生きていけているのかを明らかにしているという意味でこれらの研究からの示唆は興味深い。

障害リハビリテーション関連では，Sahly and Cusick(2016）は，障害者と彼らのためのサービスについて，ベンガジのリハビリテーション・ハンディキャップ・センターを中心にあまり報告事例がないリビアについて報告している。Chafjiri(2017）は，イランにおける2000年の政府部門での職業リハビリテーションと，2014年の民間部門での同リハビリテーションとを154人の障害当事者へのインタビューによって比較した研究である。これらは客体としての障害者たちへの支援という意味で，「障害と開発」の研究では，前面ではなく，むしろ背景として論じられることになる。

文化や人権についての研究として，O'Dell(2015）は，イラン映画から障害がどのように描写されているのか，障害がイランにおける映画の新しい波にどのような影響を与えているかを探ろうとしている。文化や人権の立場からのアプローチでは，障害当事者たちの主体的な関わりがある場合には，「障害と開発」の研究のなかで積極的な意味を持ち得よう。

次に中東地域の特性として，女性の社会的地位が低いという指摘に関連した研究がある。そうした問題に関連して，Abu-Habib(1997）は，国際NGO，Oxfamによるレバノン，シリア等での障害女性についてのケース・スタディである。一方，Ortoleva and Knight(2012）は，国連安全保障理事会決議で女性のエンパワメントと平和構築において障害女性が無視されている問題を指摘したものである。Hamdar(2014）は，現代アラブ文学における女性の疾病と身体について論じている。障害女性についての研究であるこれらは，後で述べる中東地域での女性の社会的地位との関わりから，今後の中東地域における「障害と開発」

の研究で押さえておくべき大事なポイントとなる。

上記とはさらに異なった政策的な分析視角を持つものとして，World Bank（2016）は，MENA諸国と呼ばれる中東と北アフリカ地域の障害者への所得支援を目的とした研究で，彼らの置かれている当時の政府支援をはじめとする社会的状況について分析したものである。Ben-Zeev et al.(2017）は，パレスチナの人たちの携帯電話についての調査であるが，この地域の論文としては珍しく，精神障害を持つ人たちが対象に含まれている。Hashemi(2015）は，中東地域の若者たちのなかで不利を被っている青年たちについての分析であるが，彼らのなかに障害を持つ青年達も含まれていることが指摘されている。歴史的な研究として，中東地域では，近親婚が多いことから障害者の出生率が多いとされていることと関連して，歴史的にもオスマン帝国のスルタン・カリフ制下で，ろう者の専門職が設けられているなど興味深い事実も指摘されている（Scalenghe 2014)。ただし，この近親婚については，Show and Raz(2015）が国際的に近親婚の状況を調べた結果，中東，北アフリカ，南アジアに近親婚率が高い地域があることを見いだした。また，そもそも近親婚を障害の理由とするのには，関係がない障害，また過度に関連性を見積もられすぎている障害があることを指摘し，近親婚が遺伝病とされるものと関連しているのは，サラセミアなどの遺伝性血液疾患などに限られていることをデータから示している。このため，近親婚をこの地域の障害率の高さと関連づける議論には気をつける必要がある。

以上から中東地域における障害関連の先行研究においては，まだ地域にはバラツキがあるものの，いくつかの国で障害児教育や障害者への福祉諸政策についての報告は出てきていると言える。しかし，「障害と開発」という研究分野で重要な障害当事者の視点からの政策評価はまだなく，特に女性障害当事者からの政策評価は，現地の実態のなかで彼女たちが置かれている特異な状況に比すると，言及も分析も不足していると言える。これらを明らかにするのは，特別支援教育や福祉といった国家の視点や制度を中心に論じるアプローチは異なる「障害と開発」で重んじられてきた「開発問題としての障害」(森 2008）というアプローチである。中東地域については，こうした「障害と開発」の視点からの研究はこれまた未だにほとんどない。

2 中東における障害

ところで，中東というと「はじめに」で引用した中東の定義でも出てきたように，イスラーム，イスラム教を抜きにしては語れない。宗教について，国際比較が可能なデータとして，国連統計局がまとめている中東地域に属する国々のデータを以下に掲げてみる。図1-3は，中東地域にかかってくる地域[1)]を担当する国連の地域ブロック，ESCWAによる宗教の分布状況を示すものである。これを見ると，この地域では，イスラエルのようなユダヤ教が多い地域こそあれ，イスラム教の占める割合が非常に多いことがわかる。もちろん，イスラム教内の宗派別の分布の問題などはあるが，世界の他地域と比べた時に，こうしたイスラム教が圧倒的多数を占めるということとは，この地域の障害のありように影響を与えているのではないかと考えるのは自然なことであろう。

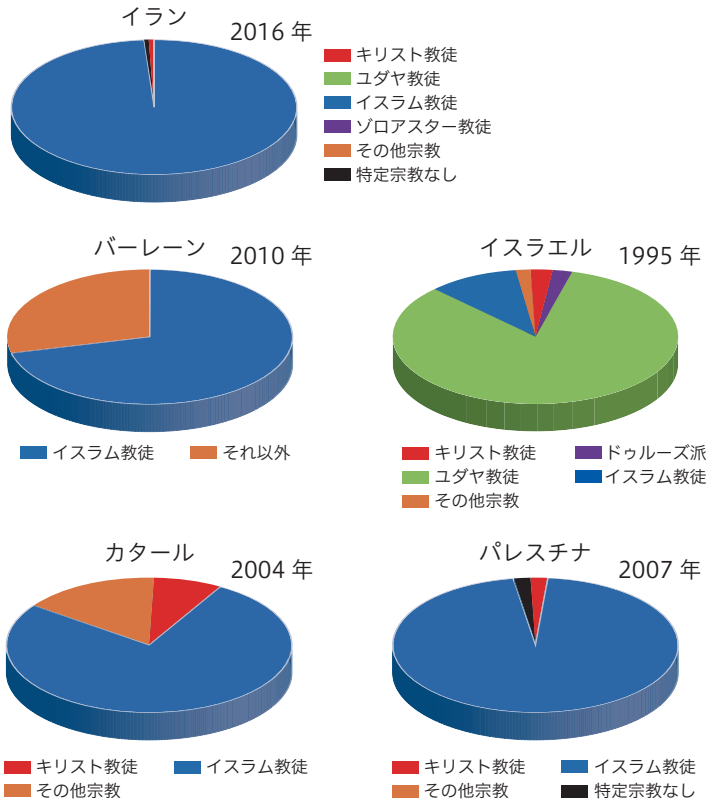
そのイスラームにおいて障害がどのように扱われてきたのかは，この地域の「障害と開発」を考える際には避けて通れない疑問である。イスラームにおける障害の捉え方は，当然のことながら，中東地域の社会における障害のあり方と関係してくる。そこでこの地域の社会で大きな影響力を持つイスラームの宗教法であるシャリーアとその解釈学であると言われるイスラム法学における障害については，本書でも一章を割いて，第3章で論じている。

また例外的な地域とも言えるイスラエルについても最後の章で同国を扱い，中東地域の多様性にも配慮した。

---

1)「はじめに」でも述べたように中東がどこを指すのかについては大変に多くの議論がある上，国連でも独自の地域ブロックを定めており，そのカバーする範囲は，バーレーン，イラク，ヨルダン，クウェート，レバノン，オマーン，カタール，サウジアラビア，シリア，アラブ首長国連邦，イエメン，パレスチナ解放機構 PLO，エジプト，スーダンの14カ国であるが，イスラエルは当初から除外されている。したがって，ESCWAは，いわゆる中東と呼ばれている地域を必ずしもすべて含んではいない。

図1-3　中東地域における宗教の分布状況



（出所）United Nations Statistics Division, UN Data(http://data.un.org/).

3　本書の視角と構成

以上，『中東のなかの「障害と開発」』の研究を始めていくための序論として，既存の諸研究の状況を俯瞰した。「障害と開発」の研究は，これまで障害を医療や個人の問題に限定する「障害の医療モデル」ではなく，社会と障害者との相互作用の間にこそ障害があるとする「障害の社会モデル」(星加 2007; 杉野 2007; 森 2008など）に則って「開発問題としての障害」について明らかにしてきた。本研究でもこうした立場を堅持し，各国の発展段階や社会構造が障害にどのように

影響しているのかを障害当事者たちが置かれた状況を見ることで明らかにしていった。

中東地域における障害者の問題については上記のように散発的な研究は出てきているものの，それらを改めて俯瞰した上で，中東地域の障害当事者の置かれた状況がアジアやアフリカ等，これまで研究が行われてきた地域とどのように違うのかは，未だ明確に位置づけられていない。また現地の障害当事者たちの諸活動という「障害と開発」の研究が明らかにしてきた状況についても他地域と比較しての特徴はまだ論じられていない。

しかし，イスラームにおける障害については，イスラームの教えの基本となるイスラム法においては，障害は，忌避されたり周縁化されたりするものではなく，むしろ障害があってもイスラーム・コミュニティでは包摂されるべきものとして扱われており，そのコミュニティのリーダーには，そのための努力が求められていることもわかった（Bazna and Hatab 2005; Rispler-Chaim 2007; Al-Aoufi et al. 2012など）。したがって中東地域における障害者の抱える問題はイスラームに帰する問題というよりは，各地域のそれぞれの歴史や社会のイスラーム以外の要因をもう少し詳しく検討しないとならない。中東地域の各国の状況をつぶさに取り上げながら，イスラームについてもさらに詳細な検討を行うことによって，同地域の障害のありようについて迫っていく必要がある。

本書で取り上げる地域は，中東地域のなかでもすでに日本で障害に関わる研究蓄積のあるトルコ，レバノン，イランである。中東という多様な地域を少しでもカバーするために域内枠組みについては，湾岸諸国協力会議（GCC, the Gulf Cooperation Council）も取り上げる。中東のなかでのすべての国を取り上げることは，さまざまな制約もあって難しかったが，それでも複数の国を取り上げることで，各国について，それぞれの国の障害者政策と障害当事者運動の状況，障害当事者たちの生活状況について記述を行ったことから，本書全体としてはある程度，障害者の実情とそこにある問題についての記述ができたのではないだろうか。ただ本書では，シリア，パレスチナ，エジプトやマグレブなど「障害と開発」分野での研究蓄積の不足からカバーできなかった地域がまだ残されていることも今後の大きな課題として指摘しておきたい。中東地域の域内枠組みとしては,「障害と開発」を意識してGCCの「アラブ障害者の10年」という域内の国を超えた

取り組みについて，その成果のレビューと評価を試みた。これらの国々については，言語的にも文化的にも，トルコ語，ペルシャ語（イラン），アラビア語と多様であり，中東地域の多様性の一部も各章で示すことができた。

また中東地域のなかでマジョリティを占めるイスラームにおける障害観についても，我が国ではこれまでレビューされたことがないため，これについてもイスラム哲学とイスラム法の専門の立場から，一章を設けて分析に取り組んだ。「障害と開発」の視点というこれまでなかった視点から中東地域について分析を行い，どのように障害がこの地域で存在しているのかを明らかにする。

またイスラームとは異なるこの地域の宗教であるユダヤ教の国であるイスラエルについても，障害学研究の成果を踏まえたイスラエルの研究者による論文の抄訳を補遺の一部として加えて，その他の中東地域との違いについての理解を深められるようにした。

以上を踏まえ，本研究のリサーチ・クェスチョンは，「中東における障害者や障害の現状はどのようなものと言えるか？」とした。つまり，この地域の障害者の状況や当事者団体の活動などにはどういった特徴が見いだせるかということである。これは同時に中東地域の他のマイノリティ以上に不利な状況に置かれていると考えられる障害者の実像と障害のありようについても明らかにしようというものでもある。こうした研究は，他の中東地域や「障害と開発」というテーマに関心を持つ研究者への指針のひとつとなるだけではなく，JICA等の現場で支援活動に携わっている人たちにも，どういった課題が中東地域の障害者の問題としてあるのか，それが中東地域の特性とどのようにかかわっているのかを改めて整理することで，今後の支援活動への指針の基礎を与えることにもなろう。本書がこの問いに十分答え切れているかどうかは読者の審判を待つしかないが，多様性を帯びた中東地域に生きる障害女性が，他のマイノリティとの交叉性に直面するなかでイスラーム教義によらない差別により強く苛まれている問題や，その解決のために当事者団体が支援補完を行っている状況などを明らかにできたと言える。

本書の構成は，全体の各国の議論の準備段階となる第1章から第3章までの部分と，各国についての分析である第4章から第5章まででの部分と大きく2つに分かれる。第1章で中東地域の障害者の状況について先行研究を中心にこの地域の従来の障害者にかかわる議論を紹介した。従来の議論が教育分野などでは，障

害当事者の視点からの「障害と開発」のアプローチを十分になし得ていないことを指摘することで，当事者団体の状況など本書の各章で重視すべき観点を改めて強調した。次に第２章では，この地域における障害者権利条約の履行といくつかの国における障害法の動向を見た。中東地域では障害者の人権をどのように捉え，どのように国内の障害法に反映してきたのかをサウジアラビア，アラブ首長国連邦（UAE），イラン，トルコについて見たものである。続く第３章では，第１章でも触れたイスラームの問題について，さらに深く２つの観点から論じた。最初の第１節では，伝統的なイスラーム思想の４つの要素（法学，神学，スーフィズム，哲学）の基本的な考え方を概略し，それぞれの思想における障害にたいする態度を概観した。第３章では，アシュアリー派神学者かつシャーフィイー派法学者としてイスラーム思想に大きな影響を与えたアブー・ハーミド・ムハマンド・ガザーリー（1111没）の『宗教諸学の蘇り』を検討することにより，イスラームにおける障害の取り扱いにかんする具体例を見た。これによって，歴史的な背景またイスラームという中東地域を深く彩る世界観における障害がどのようにこれまで捉えられてきたかを概観することができたと思う。

続く第４章以降では，各国の具体的な事例に迫った。まず第４章は，レバノンの事例である。レバノンは中東でも障害当事者運動が活発な国として知られている。内戦や政治状況から，政府がうまく機能していない問題は障害当事者たちの生活にネガティブな影響をもたらしており，そうしたなかで社会変革のエージェントとしての当事者団体の役割が本論を通じて浮き彫りにされた。障害当事者の運動のリーダーへのインタビューによって，国際性やアラブ域内のネットワークを活用する彼らの活動についても同章は明らかにした。第５章は，中東の中進国イランである。同国，エスファハーンのろう・難聴者の団体のメンバー 18歳以上の男女から得た284人（男性133人，女性151人）の回答を，イランのろう・難聴者が置かれた文脈とともに記述したものである。イランの障害者についての研究も少ない上，こうした調査による具体的な状況がわかる分析というのは国際的にも希少価値がある。

最後に補遺として３つの資料を含めた。まずはトルコの障害者にかんする基礎的な情報についてである。トルコでのデータを障害統計，教育，雇用，生活保障に基づいて紹介し，新型コロナによる影響についても若干ではあるが，触れた。

2番目が海外からの寄稿をもとにしたイスラエルについてである。中東のなかでも異色の国であるイスラエルを取り上げ，同国の障害学の研究の蓄積の上に立った同国の障害者の実情と政策についての紹介である。いわゆるイスラームの中東のイメージとは異なるが，同国は障害者数の把握が比較的できており，政府による政策もさまざまな形で行われている様子が理解できる。いわゆる欧米的な障害者政策が採られる一方で，障害当事者団体の活動も活発なのが同国の状況である。

最後に国際協力機構（JICA）の国際協力についてのパートである。日本と本書が扱っている地域との関係についても触れるために，日本の国際協力におけるこの地域の障害者支援について紹介した。本書で扱った各国の障害当事者の状況に対して，日本は今，何をしているのか，これからどうすべきなのかという問いは当然発生するだろう。これに対する回答という位置づけになる。このため，日本の国際協力機関であるJICAにおける「障害と開発」の支援をまず国際法と国内法の双方から位置づけした。その上で現在までのJICAにおける中東での支援を紹介することで，現在までどのようなことができており，どういった課題があるのかという検討を全体の状況と特定のいくつかのプロジェクトを振り返ることで行った。また未だ解決されていない課題についても対外的な成果がより見えやすいようにすることや，障害と開発分野での取り組みの定着・制度化の問題を挙げている。これは国際協力のなかでのこの分野の協力がともすれば一時期の特殊な援助に終わってしまわないよう，メインストリーミング化をはかる（森 2008）という意味で「障害と開発」の大切な課題である。

以上，各国の分析の章から見えてくるのは，レバノンでは，民主主義と政治的自由という意味では中東地域の他地域と比較して異色な特徴を持つ国で，政府の弱いガバナンスが，障害当事者団体による政府のやるべき支援を補完していることが明らかになった。またイランについては，ろう・難聴者に限定された形ではあるが，障害当事者の生活状況や社会参加についての調査を行ったことで，政府の公式統計で得られている人口，就学状況，職業訓練参加者数以外の詳細な状況が分かった。幼少期までに失聴したろう・難聴者コミュニティへのコミットメントが強い人たちを対象にした調査であるが，例えば身につけたコミュニケーションの方法が耳が聞こえる聴者に合わせた方法であるということと就労状況との間には関連はなく，それなりに話し言葉を必須としない手工芸，建設業，製造業な

どに就いているということもわかった。就労率は男女間に大きな差はあるものの，男性で8割を超す比較的高い就労状況もわかった。しかし同時に収入はまだ低く，経済的困窮下にはあるということもわかっている。障害当事者団体という当事者のネットワークを活用できる環境にある当事者たちのこうした状況は，当事者団体の活用による彼らの状況の改善の可能性も示唆しており，興味深いデータが得られたと言える。

本書では，中東地域における「障害と開発」という障害当事者のありようを社会福祉とはまた異なる障害当事者社会の観点を大事にしながら記述，分析した。各国における「障害」像もおぼろげながら見えてくるのではないかと思う。ただすでに述べたようにエジプトやマグレブ，イラクなど本書ではカバーできなかった地域があることも事実である。これらの地域の障害当事者たちについて関心を持ち，研究を深めてくれる研究者が出現してくれることも本書は期待したい。

中東も世界の他の地域同様，多様性を持つ地域であるが，アジアなどと共通する部分，アジアとは違う部分なども本書の分析を通じて明らかになった。宗教的な多様性という意味では，アジアとは異なり，イスラームが圧倒的に強いとはいえ，それでもそこには多くの多様性が見いだせ，中東と言っても簡単にひとことでは言い表せない状況が見えてきたはずである。本書が中東という地域についての新たな視角からの理解，また同地域の障害者の実情についての理解を深めることにつながることを望みたい。また日本が今後，そのような理解に基づいて障害インクルーシブな国際協力を進めていくなかで，本書がその羅針盤となることを切に期待している。

〔参考文献〕

〈日本語文献〉

小林昌之編 2010.『アジア諸国の障害者法――法的権利の確立と課題』アジア経済研究所研究双書No.585，アジア経済研究所.

――― 2012.『アジアの障害者雇用法制――差別禁止と雇用促進』アジ研選書No.31，アジア経済研究所.

――― 2015.『アジアの障害者教育法制――インクルーシブ教育実現の課題』アジ研選書No.38，アジア経済研究所.

――― 2017.『アジア諸国の女性障害者と複合差別――人権確立の観点から』アジア経済研究所研究双書No.629，アジア経済研究所.

小村優太 2008.「イブン・シーナー『治癒の書』「霊魂論」における形相受容と直観の働き」『中世思想研究』(50): 49-61.

――― 2016.「イブン・シーナーにおける生理学と認識障害」『共生のための障害の哲学II UTCP-Uehiro Booklet 12』71-83 , UTCP.

杉野昭博 2007.『障害学――理論形成と射程』東京大学出版会.

長田こずえ 2008.『開発の視点からの障害へのアプローチの考察――アラブ中所得国ヨルダンとレバノンにおける「障害の権利モデル」の妥当性の検討』日本福祉大学博士論文.

長場紘 2006.『現代中東情報探索ガイド 改訂版』慶應義塾大学出版会.

星加良司 2007.『障害とは何か――ディスアビリティの社会理論に向けて』生活書院.

細谷幸子 2008.「現代イランにおける看護とイスラーム――女性看護師が男性患者のボディ・ケアをおこなう場面から」『イスラーム世界研究』2(1): 92-162.

――― 2011.『イスラームと慈善活動――イランにおける入浴介助ボランティアの語りから』ナカニシヤ出版.

――― 2016.「テヘランの脊髄損傷者の生活状況――環境，家族・夫婦の関係性，社会とのつながりに注目して」原隆一・中村菜穂編『イラン研究　万華鏡――文学・政治経済・調査現場の視点から』大東文化大学東洋研究所.

――― 2018.「NGOの活動と役割」山岸智子編著『現代イランの社会と政治――つながる人びとと国家の挑戦』明石書店.

森壮也 2008.「第8章　障害者のエンパワメント」山形辰史編『貧困削減戦略再考――生計向上アプローチの可能性』アジア経済研究所叢書4，岩波書店.

森壮也・山形辰史 2013.『開発経済学の挑戦IV 障害と開発の実証分析――社会モデルの観点から』勁草書房.

森壮也編 2008.『障害と開発――途上国の障害当事者と社会』アジア経済研究所研究双書No.567，アジア経済研究所.

――― 2010.『途上国障害者の貧困削減――かれらはどう生計を営んでいるのか』岩波書店.

――― 2011.『南アジアの障害当事者と障害者政策――障害と開発の視点から』アジ研選書No.27, アジア経済研究所.

――― 2016.『アフリカの「障害と開発」――SDGsに向けて』アジア経済研究所研究双書No.622, アジア経済研究所.
――― 2018.『途上国の障害女性・障害児の貧困削減――数的データによる確認と実証分析』アジア経済研究所研究双書No.636, アジア経済研究所.
歴史教育者協議会編 2006.『知っておきたい中東』青木書店.

〈外国語文献〉

Abu-Habib, Lina. 1997. *Gender and Disability: Women's Experiences in the Middle East.* Oxford: Oxfam; Atlantic Highlands, N.J.: Humanities Press [distributor].

Al-Aoufi, H. et al. 2012. "Islam and the Cultural Conceptualisation of Disability." *International Journal of Adolescence and Youth* 17(4): 205-219.

Al-Hilawani, Yasser A.1. 2016. "Educational Practices and Services for Students with Learning Disabilities in Oman: Proposed Guidelines." *Journal of the International Association of Special Education* 16(1): 51-63.

Al-Hilawani, Yasser A, Kourtland R Koch, and Sheldon R Braaten. 2008. "Enhancing Services for Students with Mild Disabilities in the Middle East Gulf Region: A Kuwait Initiative." *TEACHING Exceptional Children Plus* 4(5).

Al-Kandari, S., A. Alsalem, S. Abohaimed, F. Al-Orf, M. Al-Zoubi, R. Al-Sabah, and N. Shah. 2017. "Brief Report: Social Support and Coping Strategies of Mothers of Children Suffering from ASD in Kuwait." *Journal of Autism & Developmental Disorders* 47: 3311-3319. http://10.0.3.239/s10803-017-3225-y

Alkhateeb, Jamal M, Muna S Hadidi, and Amal J Alkhateeb 2016. "Inclusion of Children with Developmental Disabilities in Arab Countries: A Review of the Research Literature from 1990 to 2014." *Research in Developmental Disabilities* 49-50: 60-75. https://doi.org/10.1016/j.ridd.2015.11.005（2019年2月20日アクセス）.

Bazna, M. S., & Hatab, T. A. 2005. "Disability in the Qur'an: The Islamic Alternative to Defining, Viewing, and Relating to Disability." *Journal of Religion, Disability & Health* 9(1): 5-27.

Ben-Zeev, Dror, Cherie Fathy, Geneva Jonathan, Batoul Abuharb, Rachel M Brian, Lana Kesbeh, and Samer Abdelkader. 2017. "MHealth for Mental Health in the Middle East: Need, Technology Use, and Readiness among Palestinians in the West Bank." *Asian Journal of Psychiatry* 27（June): 1-4. http://10.0.3.248/j.ajp.2017.02.010（2019年2月20日アクセス）.

Burton, Guy, Imad Sayrafi, and Shatha Abu Srour. 2013. "Inclusion or Transformation? An Early Assessment of an Empowerment Project for Disabled People in Occupied Palestine." *Disability & Society* 28(6): 812-825. https://doi.org/10.1080/09687599.2013.802223（2019年2月20日アクセス）.

Chafjiri, Mansour Nazari. 2017. "Comparative Study of Vocational Rehabilitation among Governmental and Private Sectors on Employment of Disabled Persons." *Middle East Journal of Family Medicine* 15(6): 11-15.

Dababnah, Sarah, and Kathleen Bulson. 2015. “ ‘On the Sidelines’: Access to Autism-Related Services in the West Bank.” *Journal of Autism & Developmental Disorders* 45(12): 4124-4134. https://doi.org/10.1007/s10803-015-2538-y（2019年2月20日アクセス）.

Djalalinia, Shirin, Sahar Saeedi Moghaddam, Maziar Moradi-Lakeh, Saeid Shahraz, Mohsen Naghavi, Christopher J L Murray, Theo Vos, et al. 2017. “Prevalence and Years Lived with Disability of 310 Diseases and Injuries in Iran and Its Neighboring Countries, 1990-2015: Findings from Global Burden of Disease Study 2015.” *Archives of Iranian Medicine (AIM)* 20（7）: 392-402.

Economic and Social Commission for Western Asia（ESCWA）2017. Arab Disability Statistics in Numbers 2017. ESCWA https://archive.unescwa.org/publications/arab-disability-statistics-2017（2019年2月20日アクセス）.

Emam, Mahmoud. 2016. “Management of Inclusive Education in Oman: A Framework for Action.” *Support for Learning* 31（4）: 296-312. http://10.0.4.87/1467-9604.12139（2019年2月20日アクセス）.

Hadidi, Muna S.1, and Jamal M.1 Al Khateeb. 2015. “Special Education in Arab Countries: Current Challenges.” *International Journal of Disability, Development & Education* 62（5）: 518-530. http://10.0.4.56/1034912X.2015.1049127（2019年2月20日アクセス）.

Hamdar, Abir. 2014. *The Female Suffering Body: Illness and Disability of Modern Arabic Literature. Gender, Culture, and Politics in the Middle East Series. Syracuse,* NY: Syracuse University

Hashemi, Manata. 2015. “Studying Disadvantaged Youths in the Middle East: A Theoretical Framework.” *CIRS Occasional Papers* 16: 1-27.

ILO 1974. Regional Middle East: Proceedings, Conclusions and Recommendations, ILO/UNDP Regional Seminar on the Organisation and Development of Disabled Persons’ Co-Operatives（Warsaw, Poland, 16 September to 5 October 1974）: Report Prepared for the Participating 1974. Geneva: United Nations Development Programme, International Labour Organisation.

Iqbal, Farrukh, and Youssouf Kiendrebeogo 2014. “Education Attainment in the Middle East and North Africa: Success at a Cost.” Policy Research Working Paper Series. The World Bank.

Karimkhani, Chante, Robert P Dellavalle, Seyed M Karimi, Vafa Rahimi-Movaghar, Farshad Pourmalek, Aliasghar A Kiadaliri, Mohammad Ali Sahraian et al. 2017. “Burden of Skin and Subcutaneous Diseases in Iran and Neighboring Countries: Results from the Global Burden of Disease Study 2015.” *Archives of Iranian Medicine (AIM)* 20（7）: 429-440.

Khoury, Dima, Ansam Al-Khatib, Nisreen Shelleh, Shayma Hijazi, Rula Ghandour, and Rita Giacaman 2015. “Disability Among Children in the Occupied Palestinian Territory...Middle Eastern Nurses Uniting in Human Caring, Third Annual Middle East Conference; Aqaba, Jordan, February 2015.” *International Journal for Human Caring* 19（4）: 79-80.

Koch, Kourtland, Onur Ozdemir, and Cem Akkose. 2014. “Enhancing Early Intervention Services for Children with Special Needs in the Middle East: A Turkish Initiative.” *International Journal of Early Childhood Special Education* 6（1）: 143-150.

O’Dell, E J. 2015. “From Leprosy to The Willow Tree: Decoding Disability and Islamic Spirituality in

Iranian Film.” *Disability & Society* 30(7): 1123-1126.

Ortoleva, Stephanie, and Alec Knight. 2012. “Who’s Missing? Women With Disabilities in U.N. Security Council Resolution 1325 National Action Plans.” *ILSA Journal of International & Comparative Law* 18 (2): 395-412.

Rispler-Chaim, Vardit. 2007. *Disability in Islamic Law*. Dourdrecht: the Netherland, Springer.

Sahly, Rania M Hamed El, and Anne Cusick. 2016. “Rehabilitation Services in Benghazi, Libya: An Organizational Case Study.” *Middle East Journal of Family Medicine* 14(9): 11-18.

Scalenghe, Sara 2014. *Disability in the Ottoman Arab World*, *1500-1800*. New York, NY : Cambridge University Press.

Sepanlou, Sadaf G, Mahboubeh Parsaeian, Kristopher J Krohn, Ashkan Afshin, Farshad Farzadfar, Gholamreza Roshandel, Chante Karimkhani et al. 2017. “Disability-Adjusted Life-Years (DALYs) for 315 Diseases and Injuries and Healthy Life Expectancy (HALE) in Iran and Its Neighboring Countries, 1990-2015: Findings from Global Burden of Disease Study 2015.” *Archives of Iranian Medicine (AIM)* 20(7): 403-418.

Show, Alison and Avoad Raz 2015. *Cousin Marriages: Between Tradition, Genetic Risk and Cultural Change*. New York: Berghahn Books.

World Bank 2016. “Income Support for Persons with Disabilities in Middle East and North Africa.” World Bank Other Operational Studies. The World Bank.

©Soya Mori 2023
本書は「クリエイティブ・コモンズ・ライセンス表示4.0国際」の下で提供されています。
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja